

# DOBOKU 偉人伝

江戸、明治、昭和と時代に合わせて姿を変えてきた東京のまち。  
総人口100万人を超える世界有数の巨大都市に暮らす多くの人々の生活を支えた  
インフラ整備とそれを手掛けた“人”にスポットをあてる。

## 第三回

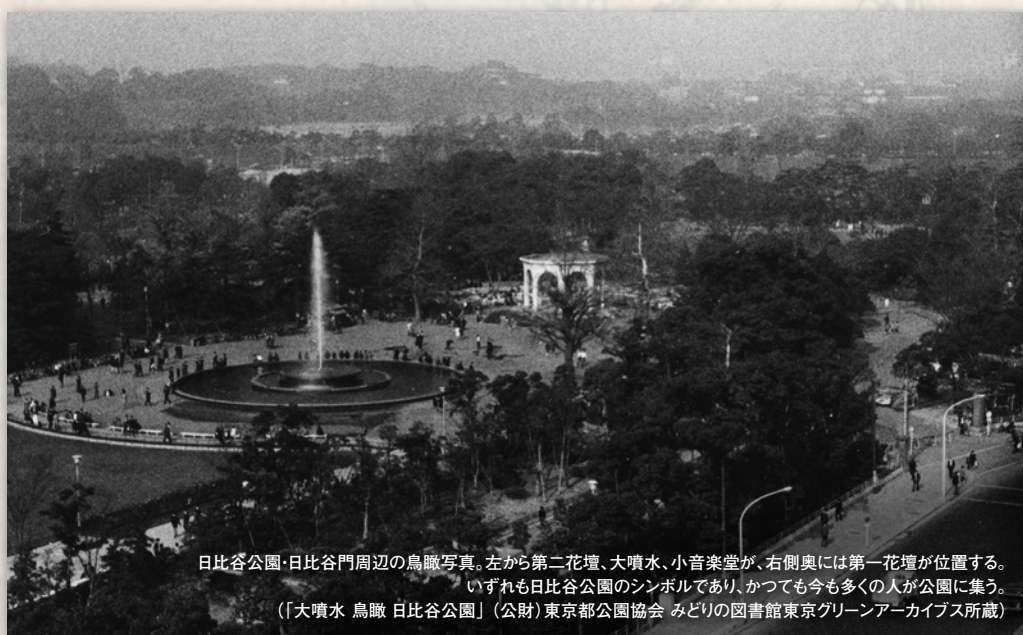
# 本多静六と日比谷公園



本多静六  
(提供：久喜市教育委員会)

## 日本の公園の父

官公庁やオフィスなどのビル群の中に突如現れる色鮮やかな緑。ランチタイムになると多くのオフィスワーカーらが噴水広場で思い思いの時間を過ごす。まさに都会のオアシスともいえる日比谷公園である。わが国初の本格的な洋風公園として都心に設置された日比谷公園が昨年、開園120年を迎えた。その日比谷公園を設計したのが、本多静六である。わが国最初の林学博士として社会インフラ整備や国土強靱化の役割を担ってきたが、ある人物との出会いによって日比谷公園を手がけたことをきっかけに国内多くの公園を設計。「日本の公園の父」と呼ばれるまでになった。



日比谷公園・日比谷門周辺の鳥瞰写真。左から第二花壇、大噴水、小音楽堂が、右側奥には第一花壇が位置する。いずれも日比谷公園のシンボルであり、かつて今も多くの人々が公園に集う。  
〔大噴水 鳥瞰 日比谷公園〕(公財)東京都公園協会 みどりの図書館東京グリーンアーカイブス所蔵

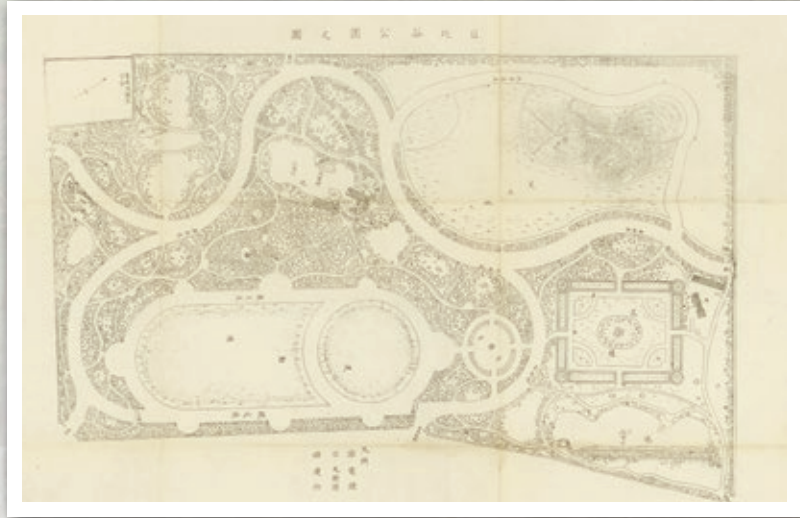
## わが国最初の林学博士

本多は1866(慶応2)年、現在の埼玉県久喜市の裕福な農家に生まれた。勉強嫌いだったが、9歳で父が他界し一家の収入が断たれ、家の手伝いをするうちに勉強する喜びを知り、猛勉強をして東京山林学校(現在の東京大学農学部)へ入学。卒業後、ドイツへ留学し、西洋の先進的な林学を修得した。ドイツでは、林業が国富を生み出す重要な産業であることを学んだ。帰国後は東京帝国大学の助教授に就任し、わが国初の林学博士の学位を取得。日本初の造園学の講義を行ったり、多くの林学に関する専門書を刊行したりするなど日本の林学の発展に大きく貢献した。

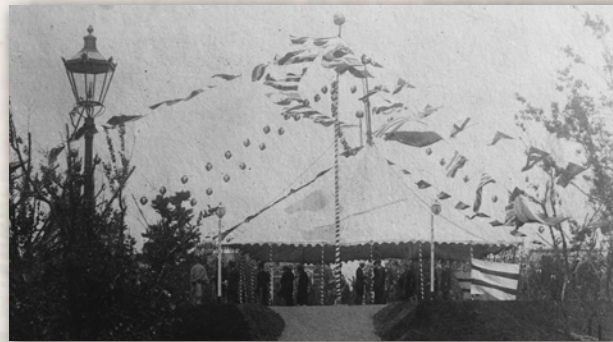
## 辰野金吾との出会い

林学博士として成功を収めていた本多に大きな転機が訪れる。多摩川の水源地調査囑託として東京市庁に出入りしていた際、市の顧問だった辰野金吾の部屋を訪れたことがきっかけだった。部屋では辰野が日比谷公園の設計を検討していたのだった。そこで、本多が少し意見を述べたところ、逆に設計をもちかけられてしまう。当時、洋風の庭園や公園を設計する専門家はおらず、東京駅の設計として有名であった辰野をもってしてもなかなか理想的な案にたどりついていなかった。本多は欧米で買い求めた公園設計書と東京市が作成した最新案をもとに1週間ほどかけて下図を作り提出。東京市の案を踏襲しつつ、ドイツ風のテニスコートや遊歩道を設けるなどした本多案が採用され、公園建設が着手された。

しかし、荒れ果てた建設予定地は、樹木の植栽には適さない地であることに加え、予算も少なく、苗木も不要なものを手に入れるしかなかった。それでも、日比谷見附付近の濠は、石垣とその上の木を生かして池にするなど本多のアイデアが随所に詰めこまれ1903(明治36)年、開園した。



本多静六による日比谷公園設計図。  
 (「日比谷公園之図」(公財)東京都公園協会 みどりの図書館東京グリーンアーカイブス所蔵)



日比谷公園開園式の様子。  
 (「開園式場 日比谷公園」(公財)東京都公園協会 みどりの図書館東京グリーンアーカイブス所蔵)

## さらに愛される日比谷公園へ

かつて長州藩や佐賀藩の大名屋敷があった地が明治に入り、陸軍の練兵場になりさらに多くの人が集う日比谷公園と生まれ変わった。そして120年あまりがすぎ、令和になった今、開園130年となる2033年に向け整備が進められている。

都立日比谷公園再生整備計画の大きな目玉となるのが、公園全域のバリアフリー化。第二花壇の段差や柵を解消し、芝庭広場へと整備するほか、公園とまちをつなぐためにデッキを2か所整備するなど段階的に進めていく。「野音」の通称で知られる大音楽堂は老朽化ですでに閉鎖して

いるが、雨天でも対応できるようにステージ上及び観客席前方に屋根を設置するなどの工事が進められる。

本多は全国の多くの公園の設計を手がけたと同時に、水戸市にある日本三名園の一つ、偕楽園の改良案を提出するなどアップデートすることも忘れなかった。2033年に向けて進化していく日比谷公園。本多静六が作った日比谷公園が100年以上続いたように、さらに長く愛されるような公園へと進化していく過程を本多の代わりに見守っていく必要があるだろう。

### 参考文献

- ・本多静六「本多静六自伝 体験八十五年」実業之日本社 2006年
- ・北康利「本多静六 若者よ、人生に投資せよ」実業之日本社 2022年
- ・土木学会土木史研究委員会編「図説 近代日本土木史」鹿島出版会 2018年
- ・折本新太郎監修「日本の都市公園 -その整備の歴史-」日本の都市公園出版委員会 2005年
- ・東京都建設局HP 日比谷公園の再生整備について(tokyo.lg.jp)
- ・大石学「首都江戸の誕生 大江戸はいかにして造られたのか」角川選書 2002年